

## 6 今年度の研究実践<手織班>

### (1) 授業研究 (R4.8.30)

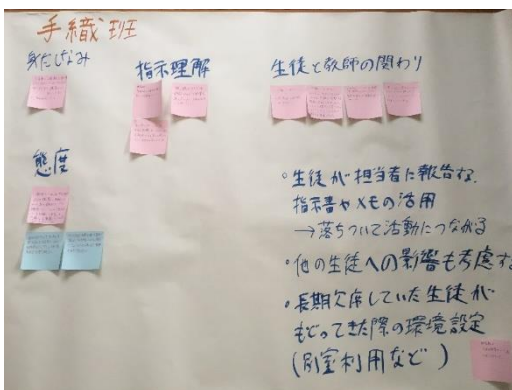
#### ①作業班の課題

- ア、担当職員の大半が手織り未経験者で、技術指導が未熟である。
- イ、生徒が指示を素直に聞くことができない。
- ウ、長期入院している生徒が作業学習へ戻る際の環境設定計画の必要性

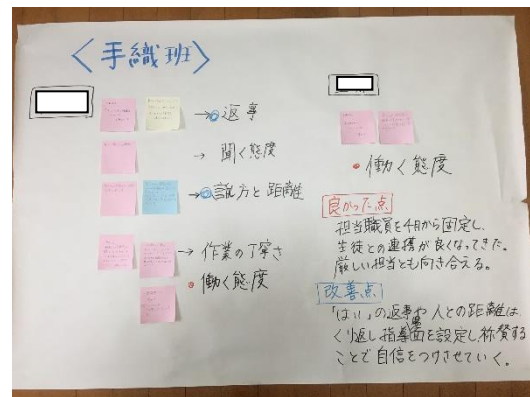
#### ②生徒が主体的に作業学習に意欲をもって参加するための支援方法

- ア、担当者の設定を固定化
- イ、teams を利用した生徒記録により、授業前に生徒の前日の様子や進捗状況確認が逐一確認できる。
- ウ、指示書を活用した指導
- エ、日誌に対応したポイントの説明プリントの提示

ワークショップ型での資料



(R4.8.30 第1回授業研究)



(R4.10.25 第2回授業研究)

### (2) 第1回授業研究会からの意見や各作業班での振り返り

- ①個人目標だけでなく、班全体の目標設定は効果が感じられた。
- ②担当職員を固定化することで、生徒がすぐに相談できるため、安心して作業に集中できている。一緒に作業する担当職員と、気持ちを一つにして作業している。
- ③他の生徒への賞賛を聞いた生徒が過剰反応してしまうため声掛けの仕方にも注意が必要。
- ④指示をしっかり聞いている様子でも、理解できていなかったり、自己流で行いたがる場合があるため、生徒の様子は見守りを続ける必要がある。

### (3) 授業研究② (R4.10.25) 2回目の授業を実施し、1回目からどう変化したのか。

- ①担当職員と生徒との連携が良くなってきている。
- ②「前はこうでした」「●●先生はこう言っていました」などの発言でごまかそうとしていた生徒にとって、担当者の固定化は次第に相互連携へと変容していった。担当が同じだと、指示がブレないので気持ちの安定にもなる。
- ③退院してきた一年生。入院前は集中が続かずに、飽きてしまっていた。退院後は集中力が続き、態度が改善された。学級で目標設定を行ったことが改善の要因ではないかと推察された。
- ④教師も生徒と同様な態度で報連相を行うことで、生徒が正しい態度を身に付け始めた。

## 7 研究のまとめ（成果と課題）

### （1）成果

- ① 2名長期入院していた手織班であるが、1年生が退院し作業へ戻ってきた。作業に対する態度が安定し、大きく改善していた。関係機関の連携や学級指導で、生徒の気持ちが安定し作業学習に臨むことができるようになったのだと推測される。もう1名の長期入院している生徒についても、作業班だけでなく、学級担任との連携を図りながら丁寧に指導をしたい。
- ② 教師の担当する生徒を固定化することで、指導するために事前に練習するなど、教師側の主体性も向上し、スキルアップにつながっている。また、難しい技術が必要となるため、教師も生徒と同様な態度で報告、連絡、相談を行うように心がけた。共に技術を学んでいる態度を生徒に見せるうちに、自己顕示欲が強かった生徒が、「自分は〇〇が苦手なので」等の発言ができるようになった。できないことは恥ずかしいことではないと、感じ取ってくれたのだと思う。
- ③ 技術が高く見える方を羨ましく思ったり、自分の方をもっと褒めて欲しいと不穏になっていた生徒がいる。それぞれの得意分野を賞賛しながら継続して取り組ませてきた結果、生徒は自分の仕事内容に自信をもち、どの仕事も大切な一部であると考えられるようになった。

### （2）課題

- ① 生徒が作業に夢中になれる時間を確保したいのだが、道具の数や生徒のそれぞれの作業スピードによって、待たせたり、やりたいことができない場面が多くなると、生徒の気持ちが乱れてしまうことがある。
- ② まだまだ教師の技術指導能力が未熟である。作業に対する態度面の指導も行いつつ、技術を教師も身につけていく必要がある。教師によって指導方法が変わると生徒が不安に感じるので、確実な指示を与えるための事前の教材研究や、場合によっては学び会える場を設けていきたい。

### （3）来年度に向けての取り組み

- ① 技術の解説動画をデータで残し、どの職員でも確認がとれるように整える。将来的には生徒も確認できる動画として活用できるまでにしたい。
- ② 作業12か条を活用し、班全体目標、個人目標へ反映させていく。
- ③ 生徒の得意分野が生かせる作業を継続させ、意欲をもって作業ができるようにする。
- ④ 成果項目は継続させていく。